
魔法少女リリカルなのは～転生～

akgka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 転生

【Nコード】

N7590Y

【作者名】

akgka

【あらすじ】

ある日転生した少年、その世界は、なのはの世界。

そんな少年の物語です。駄目駄目な作者ですが、応援してください。そして、ネタをください。お願いします。

思い、願い、絆、友情があるかもしれない（前書き）

この作品は、未計画で始まり、ネタも無い状態で始まり、そして作者にとって初めての小説、二次制作です。なので至らぬ所もあると思いますが、どうかみなさま暖かい目で見守ってください。そして、ネタもください。お願いします。

思い、願い、絆、友情があるかもしれない

いつもと同じ朝、だが登校時にそれは起きた。「あなたには転生してもらいます。」そんな言葉とともに僕の意識は飛んだ。目を覚ますとそこは白い世界にもなくただ白い世界、そこに一人の女性がいた。彼女はとても美しかった、つい見とれてしまうほどに。僕は直感的に思った、「彼女は、神だ。」と、それと同じくこうも思った「彼女には、逆らえない。」と、本能が叫んでいた、従え！と、すると「あなたには転生してもらいます。」その声で僕は今の現状を改めて見直した。・・・・・・・・

初です、きつと駄文ですがよろしければ読んでください。あと、投稿するのに時間がかかると思います。では、これからよろしくお願ひします。

1話 始まりの日(前書き)

初めまして、a k g k aです。

今回が初投稿になります。

超初心者です。

文才など欠片もありません。

こんな僕ですが、暖かく見守っていただけると嬉しいです。

そして、ネタをくれるともっと嬉しいです。

何度も言いますが、これは未計画でネタが無い状態です。

助けて！！ けどがんばります。

ではどうぞ

1話 始まりの日

その日すべてが始まった。

「・・・zzzz」

その日は、いつもと何の変りもない朝だった。

「ピリリリリリリ」

目覚まし時計が部屋に鳴り響く、

「うーん、んっ」

目覚まし時計を止めて起きる、

「はあく、よく寝た」

大きなあくびをしながら伸びる、

そのまま洗面所へ行き顔を洗い歯を磨く、

朝食を軽くすませ、

征服に着替えて学校へと向かう。

「あれ、いつもこの時間帯結構の人がいると思ったんだけどな？」

いつもと違うのはそれぐらいだ。

「まっ、いいか俺には関係無いしな」

信号が青になり歩き出す、

キイイイイイイイイ

近くの角からトラックがすごい速さで突っ込んでくる！

「お、おい、ちょ、待っ」

そこで俺の意識が切れた。

「んっ、んっ、ここは、どこだ？」

そこは一面真っ白な世界、

そこには白、白、白、人？がいた、

白い世界の中心に一人だけ人がいた、

その人は、見とれてしまうほど美しい女性だった。

そして俺は、直感した、この人は、神なのだと、

「あ、あの、すみません、少しよろしいでしょうか？」

神？が聞いてくる、

「え、あ、はい、全然構いませんよ」

俺は、なるべく丁寧に返した。

「あの、まず最初に言っておくことは、あなたは死にました、そして、新たな生を受けて転生してもらいます」

「はい！？」

俺は知っている、これは、死んで転生してチートな力を得てどこかアニメなどの世界に行くあれだ！

初めに言っておく、俺は、チートとアニメが大好きだ！

「えっと、転生してもらう理由ですが、あなたの運命を間違えて設定してしまいました、すごく不幸になってしまっただけです、その、一応直さなければならいんですが、えっと、本音を言つとですね、直すのがめんどくさくつてだつたら死んでもらつて転生させちゃえ、ということなんです」

「あつそ、まあ、なんでもいいや」

「えっ、いいんですか」

「ああ、こつちの条件を呑むんだつたらな」

「はははっ、これで、チートの力がこの手にWWW

「は、はい、それでその条件は？」

続く

1話 始まりの日(後書き)

はい、どうも、a a k k gです。

はははまだ名前も出なかったですね。

がんばって書いていくのでよろしくお願いします。

けど今テスト期間中でバリバリテストやってるんで、

次の投稿は何時になるやら、

な、状況です。

なるべく早くに投稿します。

では

2話 転生！（前書き）

どうも、a k g k aです。

まず、アビス様感想ありがとうございました。

そして、この作品が厨二って言う事に対して一言、

それは、自分+周りの人をモデルに書いているからです！

だから、しょうがない事なんです。

では、作品の方へどうぞ

2話 転生！

〈前回〉

「ああ、こっちの条件を呑むんだったらな」

「は、はい、それでその条件は？」

俺は、あっちの世界に何の未練もなかった、
いつもなにも変わらないそんな日々とうんざりしていた。

今考えるとその所為かも知れない、

アニメ、ゲーム、小説、

毎日新しい事が起り、

退屈のしない、

そんな事に憧れていたのかもしれない。

〈続き〉

俺は、主人公になるんだ！

春原にはならない！

岡崎になるんだ！

「まず、条件を言う前に聞いておきたい事がある」

「はい、なんでしょう」

「俺が転生される世界と場所、その時の年齢、条件無しにもらえるものだ」

まずこれを聞いておかないと話にならないと思う。

「じゃあまず世界と場所から、世界は、なのはの世界です。場所は、ランダムです」

「ランダム、ミッドか地球かぐらい分かんないの？」

「場合によります、無印からなら地球、Strikersならミッドかもしれないです」

「じゃあ無印で地球からで」

「分かりました、では歳ですが、0歳からです」

うっそーん

「マジで？」

「マジです」

「0からって、めんど」

「じゃあこうしましょう、3歳になったら力と記憶を付ける、ってのはどうでしょう」

「あ、それいいな！ じゃあそれで」

「はい、じゃあ後こちらからのプレゼントは、リンカーコアとデバイスで」

「分かった、けどデバイスなんてどうするんだ、生まれたとき持ってるんじゃないぞ」

「それはですね、どっかに隠しておいて記憶が戻るときに一緒に在りかが分かる、みたいので」

「まあ、それが妥当だな」

ふう、後はこっちからの条件だけだ。

「それで、そちらの条件の方は？」

「うーん、ちょっとタイム、考えるから」

「分かりました」

どうしよう、条件とか言っておいて何も考えてない。

うーん

「ああ、これだけでいい」

「じゃあ、行ってらっしゃいませ」

「ああ、行ってくる」

リ〇カ〇マジカル始まります。

続く

2話 転生！（後書き）

はーい、どうも、 a k g k a です。

主人公が出した条件については今の所秘密です。

ヒミツなんです、単に考えてなかった訳じゃないんです。

後、名前も何も出てませんが、

後で主人公紹介みたいなものする予定なんでそちらでお願いします。

では、また次回も見てくださいねえ！

じゃんけん、ポン？

うふふふふ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7590y/>

魔法少女リリカルなのは～転生～

2011年11月24日00時46分発行